



県内の外来植物駆除の試み

～裏磐梯、南湖公園、矢ノ原湿原～

1 各地で着々と進められてきた外来植物駆除

外来植物の中には、生態系に悪影響を及ぼすだけでなく、広範囲に繁茂し、文化財や自然公園などの景勝地の景観を大きく変えてしまう植物もあります。そのため、県内の自然公園や文化財などでは、外来植物の駆除活動が行われています。

磐梯朝日国立公園内の裏磐梯五色沼湖沼群周辺では、2004年頃から環境省により特定外来生物であるオオハンゴンソウの駆除、2011年からは福島大学によりキショウブの駆除が行われ、いずれの種も現在は、ほとんど見られなくなりました^{※1}。白河市の南湖公園では、湖内で船が漕げないほど大繁茂していたコカナダモの駆除が2007年より福島大学、福島県、白河市によって行われ、2010年にはほとんど見られなくなりました^{※2}。また、2017年から福島大学、白河市、南湖森林公園案内人の会によりオオハンゴンソウの駆除が行われ、2022年に概ね完了しました。昭和村の矢ノ原湿原では、2019年から福島大学により園芸スイレンの駆除が行われ、2022年に完了しました。

外来植物駆除が一旦完了した区域においても、取り残しや埋土種子、周辺からの種子散布などがあることから、引き続き、モニタリング等を行っています。

2 継続中の外来植物駆除

外来植物駆除の取組の中には、広範囲に生育している、繁殖力が強いなどの理由により、根絶が難しい場合があります。例えば、オオハンゴンソウに関しては、裏磐梯や駒止湿原へ向かう道路沿い、尾瀬の入り口の小沢平などで駆除活動が実施されていますが^{※3}、広く分布している、あるいは量が多いなどにより、なかなか根絶に至りません。

また、コカナダモに関しては、裏磐梯の曲沢沼では2013年から裏磐梯エコツアーリズム協会や福島大学などが毎年大量に駆除していますが、元々沼一面に繁茂していたことから、一向に減りません^{※1}。

希少な在来種であるバンダイクワガタの生育を脅かすコウリントンポポは、裏磐梯エコツアーリズム協会とボランティアによって駆除され、登山道沿いなどで減ってきましたが、生育場所が山頂付近でアクセスしにくいこともあり、未だ広大な面積に生育しています。南湖公園のキショウブは福島大学や白河市、南湖森林公園案内人の会により駆除が続けられていますが、根絶には至っていません。侵略的外来種は、一度広がってしまうと、息の長い駆除の取組が必要になります。



白河市南湖で駆除された
コカナダモ



裏磐梯五色沼自然探勝路沿いで
駆除されたオオハンゴンソウの袋



昭和村矢ノ原湿原での
園芸スイレン駆除の様子

※1 黒沢高秀・塘忠頭。2016. 裏磐梯・猪苗代地域の生物多様性とその保全。塘忠頭(編), 裏磐梯・猪苗代地域の環境学, pp. 237-258. 福島民報社, 福島。

※2 黒沢高秀・薄葉満・長林久夫・薄葉正雄・稲葉修・三田村敏正・吉井重幸。2011. 史跡名勝南湖公園(福島県白河市)の生物多様性保全に向けた提言。福島大学地域創造 22(2): 68-77。

※3 堀澤慶行・宇野翔太郎・田子裕輔・大森威宏・黒沢高秀。2023. 小沢平および御池のオオハンゴンソウ。尾瀬の保護と復元(印刷中)